四街道市　平成２６年度第５回保健福祉審議会

子ども・子育て部会　会議録（概要）

日　時	平成 26 年 12 月 14 日（日）　午後 2 時 05 分 ～ 午後 4 時 00 分
会　場	市役所本館５階第１会議室
出席委員	
江口　勝善 岡田　はる美 有川　良子 飛田　周彬 松戸　智宏 高倉　幸世 神保　友紀 山田　真琴	
欠席委員	
中村　修治	
傍聴者　6　名	
会議次第	
１．開会 ２．部会長挨拶 ３．健康こども部長挨拶 ４．議題 ①（仮称）四街道市子ども・子育て支援事業計画（案）について ②その他 ５．閉会	

１．開会

２．部会長挨拶

（部会長より挨拶）

３．健康こども部長挨拶

（健康こども部長より挨拶）

４．議題

①（仮称）四街道市子ども・子育て支援事業計画（案）について

【部会長】
議題①（仮称）四街道市子ども・子育て支援事業計画（案）について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】
（議題①について説明）

また、本計画案につきましては、本日の部会での委員の皆さまのご意見を踏まえ、修正等があれば修正等を加えた形で、今月の２２日から１月２０日までの３０日間、計画案に対するパブリックコメントを実施する予定です。現在、子ども・子育て支援事業計画のほか、高齢者の計画、障害者の計画を策定しており、３計画を合わせてこのタイミングでパブリックコメントを実施する予定であることを、あわせてご報告させていただきます。

【部会長】
事務局の説明について、委員の皆さまのご意見、ご質問をお願いします。
【飛田委員】
次の４点の疑問についてお答えいただきたい。
１.「児童人口の推移」（８ページ）で、四街道市は転入によって増加しているとの表現があるが、年齢別の状況と長期滞在の外国人の状況がよくわからない。
２.「世帯数の増加」（１０ページ）について、世帯構成はわかるが、そのなかの年齢構成がわからない。子どもの転入なのか、高齢者の転入なのか。
３.「保育所の状況」（１２ページ）について、保育所数、入所児童人数、待機児童が増えているということだが、一般の人にも「今、待機児童が何人いるから、保育所がいくつ必要だ」と数値がわかるようにしておくといいのではないか。どこがどういうふうに足りないのか、どうしたら「子育て日本一」として保育所不足をカバーできるのか、その辺についてわかりやすく構成していただけるとよい。
４.「小中学校の状況」（１５ページ）で、学級数と人数の関係が把握できない。

【事務局】
　児童人口の増加については、必ずしも転入による増加とは限らないので、確認します。
【飛田委員】
　パブリックコメントの中では、どのような年齢の世帯が増加しているかといった質問は出ないと思うが、まちづくりでは基礎的な問題ですから把握しておいたほうがよい。
【事務局】
　２６年４月現在、市内の保育所の入所率は１０４．４％となっています。定員の弾力化で、受け入れ態勢が可能であれば定員の１２０％まで弾力化が認められています。しかし、障害児のお子さんを受け入れている園であれば、そのお子さんについての保育士の配置も必要ですから、全体として受け入れ態勢が可能で、利用児童の保育に適正だと思われるところを保育所より知らせていただいたうえで入所調整している状況です。２７年４月からの新制度では、数値目標がすべて定員で設定して確保方策を設けることになっていますので、保育のニーズとの調整が難しいところです。
【飛田委員】
　今の答えだと、四街道の保育所の現況では、待機児童はいるけれど吸収できるということか。できないから問題になっているのであれば、いくつくらい保育所を建てれば消化できるのか。「子育て日本一」であれば、市がきちんとプレゼンテーションするべきではないか。
　保育所の新規設置体制をどのようにしたら待機児童を救えるか。定員数はどれくらいで、１２０％まで弾力化した場合はどれくらいか、など数値を固めたうえで出てくるならわかると思った。
【事務局】
　保育所の設置数については、総合計画で定めて取り組んでいますが、弾力化の１２０％まで入るという想定ではなく、現状を踏まえて進捗を見ながらの整備をしています。ただ、結果的に保育所を設置すると、待機児童が逆に多くなっています。
【飛田委員】
　実態がわからない意見で申し訳ないが、ただ、そういうことを解決しないと、いつも計画を立てて、計画倒れになってしまうことにならないか。総花主義で物事を進めても事業の達成度は低いのではないか。
【事務局】
　待機児童の推移を単純に数字だけ見ると、平成２５年は３６人でした。これは、あくまで４月１日時点ですが。今年４月には６０人の施設がオープンしているのですが、待機児童は５６人に増えています。よく言われることですが、施設をつくればつくっただけ待機児童は減らず、逆に潜在的なニーズの方が現れたりします。
　従って、施設の整備については、量の見込みに対する確保方策という形で計画に定めるという国の方針に基づいています。
【飛田委員】
　四街道市は出生率が１．４３で全国平均と同じ。千葉県は１．３１と相当低い。そういうことを考え、人数的には子どもはそんなに増えていないのだが、出生率に合わせた形での保育所整備が必要ではないか。

【事務局】
　今のご質問ですが、四街道の保育所は分園を入れると１１か所あり、保育所定員は増えている状況です。概数で恐縮ですが、５歳以下の人口が約４，６００名、その中で、幼稚園が１，６００～１，７００名、保育所が約９５０名。そうすると、約２，０００名はお母さんが見ていたり、幼稚園や保育所を利用していないお子さんがおり、今でも希望する方全員が入所するのはなかなか難しい状況です。
　保育所数の増加はもちろん大事ですが、小規模保育、さらに、幼稚園の預かり保育などを充実していく中で、なんとか受け入れの増加を図っていきたいと考えています。昨年行ったアンケート調査では、教育的な面から幼稚園に入れたいという保護者が多いという結果もあります。そういった意味でも、「一時預かりの充実」を今回の計画の重点施策のひとつとしております。
　また、現在、市内の認可外保育所は、２か所あり、定員が１００名となっています。働いて子育てしたいお母さんの要望にお応えするには、これらも含め、計画に基づいて着実に確保方策を実施していかなければならないと考えています。
【部会長】
　待機児童数の問題は、単に出生率の比較の問題だけでなく、貧困家庭の子どもが増えているということもあり、保護者の就労の問題とかなり厳密に絡んでいる面があります。出生率の問題は基礎ベースとして大事なのですが、いくら新設しても追いつかないという実態があるということを、現場にいると感じます。さきほどの話にあったように、４年連続、毎年１園新設しても待機児童が減らない状態です。親御さんの就労の問題、保育所に対するニーズの問題は、出生率以上に判断の材料として重要になってくると思います。
【有川委員】
　私は孫をときどき見ているが、幼稚園に子どもを預けながら働いている親は、その後の保育となると悩んでいる部分があり、毎月、保育所の入所の可否について相談しています。
　しかし、保育だけでは不安もあるようで、だからといって、どこか塾に行かせるにしても働いている親は時間が取れません。保育でありながら、幼稚園と同じような教育ができる場を早く作ってほしい。子育て世代の親として、保育所と幼稚園の教育の一体化の体制を早く整えていただきたい。よろしくお願いします。
【部会長】
　保育と教育の一元化という話があったが、実際、中身の一元化は難しい。例えば、四街道に１か所ある認定こども園は、ひとつの敷地の中に保育所と幼稚園があり一緒にやっている。しかし、同じ場所にあるというだけであり、幼稚園は幼稚園の機能を果たし、保育所は保育所の機能を果たしている。相互に子どもが行き来して、保育と教育の両方のメリットを受けるというシステムにはなっていないのが現状。ところが、それを「教育と保育の一元化」という言葉で進めていくところに大きな誤解があり、その辺は整理する必要があると考えている。
【飛田委員】
　幼稚園ごとに教育の仕方が違うのか。私の二男が通わせている幼稚園は英語や掛け算の九九を教えており、小学校に上がったときに楽。一方、長男は保育所に子どもを入れているが、全然違う。そういうことを考えると、幼いときから格差がついているのではないか。

【高倉委員】
　国公立大学の調査によると、個人差はあるものの、幼稚園のときに英語や九九ができても、小学校高学年や中学校に上がったときはほぼ一緒というデータがある。
【飛田委員】
　そのようには全く感じられない。個々の感じ方が違うかもしれないが、データが作られた印象がある。
【部会長】
　幼稚園は幼稚園教育要領があり、どういう教育をするか基本的に決まっている。ところが、各幼稚園は創立趣旨があり、各幼稚園なりの個性をプラスしてやっているため、おしなべて同じというわけではない。四街道市内には幼稚園が９園あり、それぞれ個性があり、うちの幼稚園のようにほとんど遊んでいるばかりの幼稚園もあれば、英語を一生懸命教えている幼稚園もある。子どもにとって「遊び」はすべての人格形成のベースだと思いますが、英語など即戦力になるものを求めるという親御さんもおり、どこを重視するかは親御さんのニーズとなる。
　まして、保育所は保育要綱に基づいて運営されており、幼稚園は幼稚園教育要領に基づいているため、そもそもベースが違う。それを一体化して運営するという方向には実態としてなかなかできていない。
【飛田委員】
　基本理念だが、四街道市はどういう方向感で、幼稚園や保育所のカリキュラム等を考えているのか。
　四街道を良くわかっている方が「基本理念」を書いていると思うが、その中に、「素晴らしい環境の中で育てましょう」「いい環境をつくりましょう」といったように、安心と安全と環境の３つについて統一したトーンで書かれているよう感じる。そのため、「環境」を前面に出した方が良いのではないか。子どもがすくすく勝手に育っていくということもあるにはあるが、人間はやはり環境に支配されるものだと思う。だから、安心した環境で、みんなで子育てをするといった形でスローガンを掲げ、「日本一」を目指した方が、我々市民からみるとわかりやすい。わかりやすいスローガンで、子育てをサポートしていく四街道の社会をつくっていくことが大事ではないか。
【神保委員】
　私は、幼稚園の子と小学校の子がいる。第二コスモス幼稚園を気に入って通っているが、小学校はいろいろな幼稚園を卒園した子が来る。いろいろな環境で育った子どもが同じクラスにいて、自分の知らない世界を聞いたり、知らなかった世界を見せてもらったりしながら、自分に合うもの、合わないものを試していく。その中で、子どもがいろいろ自分で考えて乗り越えていくのが教育で、それを見守ってサポートしていくのが保護者だと思うので、環境が全てではないかなという気もする。
【高倉委員】
　物的なものだけでなく、人的なものも環境であり、幼稚園が育てているのは、やる気や興味、関心を引き出すことなど、心の根っこのところである。小学校に上がったときのために早くひらがなが書けるようになるとか九九ができるようになるとか、そういったところではないと思う。

【部会長】
　保育所と幼稚園に関する親御さんのニーズの問題から始まり、今のような話が出てきました。飛田委員が言われたように、「基本理念」で環境問題に触れたほうがわかりやすいのではないかといった提案も出されたが、いかがでしょうか。
【事務局】
　さきほど申し上げましたように、「基本理念」に関しては「子育ち」という言葉を使っていますが、決して放っておけば子どもが育つということではなく、子どもにはそもそも育つ力もありますし、それを保護者の方が育てていくというなかで、地域であったり、住民であったり、学校であったり、そういった幅広い意味での環境を提供することで、お子さんが健やかに育つということを考えて、案として出しております。
　また、幼稚園と保育所の関係ですが、文部科学省と厚生労働省に分かれており、幼児教育と保育とで目指すところがそもそも違うなか、戦後７０年が過ぎました。それを急に一体化できないかという話が出てきており、理由の１つには、保育所は不足していますが、幼稚園は定員に余裕があるところもあるので、認定こども園という形で一体化を図ることによって不足を補おうとすること。もう１つには、保護者の方の就業状況が変わると、保育所と幼稚園を行ったり来たりするということが発生しますが、認定こども園であれば、その園のなかで動くことも可能になること。そういったなかで、できた制度かと思います。
　制度の変わり方が大きすぎて、なかなか見極めがつかないこともあり、四街道市の場合は、来年度から認定こども園に移る幼稚園や私学助成を離れて新制度に移る幼稚園はございません。そういった状況ですので、すぐに幼稚園が認定こども園に移行するという計画は立てにくい状況です。ただ、国が打ち出している方向は今後いろいろ変わってくることも考えられますので、それにあわせて計画も５年後見直しになると思っております。
【飛田委員】
　５年間で保育所をいくつ建てる予定か。目標はないのか。
【事務局】
　本計画に先行して策定した総合計画では、２８年４月に１か所、３０年４月に１か所整備する計画になっております。ただ、実際には、今年の４月に定員６０名の施設を整備しましたが、逆に待機児童は増えてしまいましたので、急遽、２７年４月の開所を目標に、施設を整備して増やすことにしました。従いまして、今後５年間に保育所を３園増やす考えでおり、これにより来年４月に定員６０名の施設を１園開所することによって、２３年以前に比べ、定員は１．５倍に増える状況です。０、１、２歳は今でも定員が足りない状況ですが、逆に３歳以上は、フルに預かる保育所だけを増やしてしまうと、定員の方が多くなってしまいます。そこで、今回、小規模保育による確保方策も考えています。ただ、今まで認可外の扱いだったので、事業者さんもすぐに小規模保育を行おうという動きにはなっていません。
【飛田委員】
　今の事務局の意見がよく理解できない。
「子どもが勝手に生きている、生きる力を持っている。だからすくすく子育ち」と言っているが、基本理念を大事にするのであれば、自然、周りの人、地域、団体、そういった環境が良いから子どもがのびのびと楽しく育つ、それが四街道の良さだとアピールしたほうが市民も受け入れやすいのではないかと思って提案している。検討をお願いします。

【神保委員】
　保育所を増やしていくには税金を使うわけですよね。今、幼稚園は結構人数が減ってきていて、既存の幼稚園があるのに保育所ばかり建てるのではなく、幼稚園の預かり保育に対して国が補助していくほうが無駄な税金を使わなくて済むのではないか。３歳以上は出来れば教育を重視してほしいと考える親も多い。本当は、幼稚園に入れながら長時間見てもらう制度を希望しているけれど、それが出来ないから仕方なく保育所に入れている、というところがある。幼稚園が延長保育するとなると先生も大変なので、行政がしっかりバックアップしていただきたい。保育所の数をやたらに増やさないで、今あるものを活用するとか、幼稚園が対処できるように変えられないかなと思う。
【部会長】
　幼稚園の預かり保育について意見が出ていますが、いかがでしょうか。
【事務局】
　保育所の新設だけでなく、総合的に考えていかないと、四街道市としてとても成り立っていかない部分があります。幼稚園についてはすべて私立ですが、保育園については公立が２か所、分園を入れて３か所、民間が８か所あり、３０年までに３か所増やすことになっています。経費については、幼稚園は県からの私学助成という形です。他方、保育所は、市から委託料等の形でお支払いしています。公立は職員の人件費にも、税金を使う形となっています。民間の保育所だと、市が出した金額の６割ほど、国や県から補助金が入ってきますが、公立だと２割５分くらいしか国や県から入ってきません。そういったことで、民間に頼っている部分が多い状況がございます。「保育所の建設ばかりじゃなく」というご意見については、先ほど申し上げましたとおり、小規模保育など保育所以外のものも含めてやっていかなければならないと考えております。
【飛田委員】
　そうすると、神保委員が言ったように、施設を増築して人数を増やすとかサービス機能でフォローしていく場を設けるかといっても、今ある建物だけでは足りないですよね。増築した場合の規制とか、県や市からの補助金など、そういったもののコラボレーションで出来あがるならば、保育所をつくってもらいたいという意見だったと思うが。
【事務局】
　幼稚園で、定員を増やす場合や延長保育をする場合、県に手続きし、県から私学助成が出ます。ただ、新制度においては基準を満たす預かりについては市から補助することともなっており、現在も金額的には少ないですが、市独自にも幼稚園協会への補助や預かり保育に対する補助金を出しています。幼稚園あるいは保育所の在り方、税金の使いみちの部分も含めて、新制度の中で検討していかなければならないと考えます。
【部会長】
　消費税１０％の見送りで、子育て支援に対する不確定な部分がかなり出てきましたよね。
　子どもがどう育つのか、環境なのか資質なのか、という点については、それぞれの人によって見方が違い、延々と続くので、時間の制限もありますので、さきほどの基本理念も含めまして、よく吟味の上、パブリックコメントにかけていただければと思います。よろしくお願いします。

【事務局】
　１２月２２日からパブリックコメントを実施予定です。今回、保健福祉審議会で、「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」、「障害者福祉計画」と「子ども・子育て支援事業計画」の３つの策定作業を同時に進めておりますが、この中でスケジュールが１番厳しいのは「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」です。と申しますのは、計画策定に伴って、来年度から３年間の介護保険料が決まります。介護保険料を変えるには３月議会に提案して議決をいただかねばならず、そこからの逆算で、１２月２２日から３計画一緒にパブリックコメントを実施する予定としており、このスケジュールを動かすのは厳しい状況です。そのため、本計画の基本理念について、改めて会議をするのは難しく、よろしければ部会長と事務局で相談させていただくか、あるいは別の方法でも構いませんが、何らかの方法を本日決めて、パブリックコメントに間に合う形で決めさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。
【部会長】
　今まで５回にわたり「子ども・子育て部会」を開催し、膨大な内容について検討してまいりました。パブリックコメントまでの時間がありませんので、今の事務局からの提案を受け入れたいと思うのですが、いかがでしょうか。
　（異議なし）

　　②その他

【部会長】
　では、議題②その他について、お願いします。
【事務局】
　最後に、「その他」ということで、今後のスケジュールについてです。冒頭に申し上げましたとおり、本日の委員の皆さまのご意見を踏まえまして、１２月２２日から１月２０日までパブリックコメントを実施します。そこで出たご意見に対して事務局で回答を作って公表します。パブリックコメントの意見を踏まえ、計画案に載せるかどうか、反映させるかどうか事務局で考え、最終の計画案という形で、「第６回子ども・子育て部会」の開催を考えています。皆さまのご予定はいかがでしょうか。

　　（各委員にスケジュール確認）

【部会長】
　ただいまの委員の皆さまの意向を踏まえ、私と事務局で相談させていただいてよろしいでしょうか。ほかになければ、本日の会議を終わりにしたいと思います。お疲れ様でした。
　ありがとうございました。
　これで第５回子ども・子育て部会を終了させていただきます。ありがとうございました。

（終了）